

令和5年度 訪問教育部について

1 指導目標

学校教育目標「健やかな心で 自分らしく 自ら取り組む 子ども」の下に、児童生徒の生きる力を尊重し自立活動を中核にした支援を行いながら、人とのかかわりの中で自己を表現する力を高め、経験を広げて自分らしく生きていく児童生徒を育てる。

2 具体目標

- (1) 身体機能、対人関係、認知力など一人一人のもっている力の維持向上を図り、自ら発信する力を高めていく。
- (2) 原籍学級やなのはな学級とのかかわりを大切にしながら、学校生活の経験を広げ、社会とのつながりを深めていく。
- (3) 身体の健康の保持、増進を図る。

3 教育課程編成について

児童生徒の実態に合わせ、健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションといった自立活動の項目のねらいとともに、各教科道徳の指導内容を組み合わせながら個々に指導計画を立てていく。訪問の限られた時間の中で行うため、児童生徒のニーズに合わせ必要な学習を選択しつつ、可能な範囲で同学年の活動を取り入れるなど、指導内容を工夫しながら教育課程を編成していく。

(1) 学習形態

家庭への訪問を主とし、児童生徒の実態や気候の様子、また感染症の状況に応じて、保護者と相談しながら以下の3つの学習形態をとる。

- ①訪問学習・・・教師が児童生徒の自宅に訪問し、学習をする。
- ②スクーリング・・・訪問の時間割の範囲内で児童生徒が学校に登校し、原籍学級やなのはな学級と一緒に学習をする。
- ③通信学習・・・オンラインで ZOOM を使って個別学習をしたり、DOUBLE3 を使って原籍学級などの学習に参加したりする。

(2) スクーリングについて

訪問の児童生徒が学校に登校することをスクーリングといい、所属する原籍学級などとの交流を中心に集団での活動を経験することをねらいとして行う。児童生徒の体調に考慮しながら保護

者と相談し、個々に応じて以下のように行う。

- ① 行事を中心としたスクーリング・・・学校行事、保健行事、クラス行事等がある時に登校する。
- ② 定期的なスクーリング・・・週3回の訪問時間の中で、定期的に登校し学習を行う。
- ③ 不定期的なスクーリング・・・本人の体調に合わせ、臨機応変に学校に登校し学習を行う。

(3) 特別活動について

児童生徒の体調に配慮し保護者と相談しながら無理のない範囲でニーズに応じて実施する。

① 校外学習

日頃外出する機会の少ない児童生徒が学校外での活動を通して様々な体験をし、興味関心が広がるようにする。

② 修学旅行

小学部、中学部、高等部の卒業学年において児童生徒の実態に応じて無理のない範囲で計画実施する。

③ 交流

児童生徒の実態に応じて、提携校や居住地校または副学籍のある学校との交流を行う。

4 家庭、医療・福祉機関との連携について

(1) 家庭との連携

保護者、家族の願いを知り、指導方針や学習内容について理解を得ながら訪問を行う。常に連絡を取りあい、児童生徒の小さな変容を見逃さず共に学び合うことを大切にしていく。

また、日常の連絡の他に学校の保護者懇談会にあわせて懇談会の時間をとり、指導計画などについて充分に話し合うようにしていく。

(2) 医療・福祉機関等との連携

児童生徒を中心に据え、学校の係とともに関係する相談支援専門員や医療機関、福祉機関、行政担当者等との連絡を密に取り合っていく。また、必要に応じて受診同行したり、訪問リハビリや訪問看護などの様子を見学する機会をとったりするなど、できる限り連携を取りながら支援を行っていく。

(3) 校内の連携

・所属している原籍学級の職員や自立活動専任の職員などをはじめとした訪問教育職員以外の職員と一緒に訪問をする機会を設定できるようにする。

・卒業後の進路を見据えて、進路指導や教育相談係との連携をすすめる。